

2022年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

2022 JUA/EU Academic Exchange Program 参加報告

川村 正隆 (大阪大)

この度2022年EAU-JUA/KUA/TUA国際交流プログラムの参加者にご選考いただき、広島大学の関野陽平先生、韓国のDr. Kim, Dr. Ko, 台湾のDr. Wei-Tin, Dr. Liao, Dr. Josephとともに参加いたしました。このプログラムは元々2020年度のEAUの開催にあわせて予定されていたものが、COVID-19のため延期となっており、2年越しでの開催となりました。私は欠員が出たことによる繰り上がりでの選考で、急遽参加させていただくことになりました。2022年6月25日から7月5日までドイツのリューベックとオランダのロッテルダムで開催された国際交流プログラムと、アムステルダム(オランダ)で開催されたEAU2022に参加し、貴重な時間を過ごすことができました。

リューベックでの交流プログラム

リューベックに到着したその日から、Prof. Axel Merseburgerの温かいもてなしをうけました。世界遺産にも登録されている美しいリューベックの街並みを参加者全員とともに歩きながらその歴史について学びました。Prof. Axelとご子息のYukiの操縦による小型ボートでリューベックを彩る建築を囲む運河を周遊する優雅な体験をしました。ランチやディナーを含めすべてが完璧に計画されていました。リューベックではUniversity Hospital Schleswig-Holstein (UHS)のORを見学する

機会を得ました。泌尿器科のORは、2つに分かれ、ロボット手術、腹腔鏡手術、開腹手術などの主な手術はメインの手術室で行われ、URS, RIRS, PCNLなどは外来にある放射線遮蔽室で行われました。コロナの再燃により、いくつかの手術はキャンセルされていましたが、幸運にもProf. AxelによるRARP, RIRS, mini-PCNLなどを見学させていただきました。手術中の細かいステップに関して意見を交わすことができ、よく理解することができました。その後はUHSの医療スタッフによるレクチャーが行われました。まずProf. AxelからmHsPCの最新の治療法について、Prof. Kramerから2022年のASCOの泌尿器腫瘍の最先端のマネジメントについて、Dr. Ozimekからendourologyに関する研究を発表されました。UHSのすべてのスタッフが温かく迎えてくださったおかげで、私たちは忘れられない素晴らしい思い出を共有することができました。

ロッテルダムでの交流プログラム

エラスムスメディカルセンター(Erasmus MC)はオランダの最大規模の医療センターで、Prof. Joost Boormansは我々のために充実したプログラムを用意してくれていました。マイクロサージェリーの実習では精管精管吻合の練習をしました。Prof. Alexanderから機能的泌尿器学に関する経皮的神経評価(PNE)についてレク



リューベックで参加者とともに



EAU International friendship dinnerでの盾の授与

チャーがありました。次にポスドク研究者たちが AI による病理学的スライドの読み取りや膀胱癌のオルガノイドなど、独創的なアイデアを披露してくれました。昼食時には、美味しいサンドイッチを食べながら、エラスムスチームのメンバーとおしゃべりをしました。女性泌尿器科医の比率がアジアと比較して圧倒的に高いことや学位を取得してから泌尿器科に fix することなど、国による差異について議論しました。午後は、前立腺癌オルガノイドの構築、リボソーム RNA におけるエピジェネティックな変調の役割、細胞外小胞の電子顕微鏡研究などの紹介がありました。これらの最新の研究トピックは、非常に新鮮でした。Erasmus MC での初日を終えた後、Alexander 教授とレジデント達がエラスムス橋から発着する素晴らしい船旅に同行してくれました。運河の歴史について説明を受けながら、ビールを飲み美しい景色を楽しみました。夜はハーバークラブでの歓迎ディナーに参加し、東洋と西洋のフュージョン料理を食べ、教授、研究室のスタッフ、レジデント、博士課程の学生など、参加者全員と楽しくおしゃべりしました。すべてのプログラムが終了した後、Prof. Bangma の計らいで、ロッテルダムの有名建築ツアーが開催されました。Cube Houses, Market Hall, Saint Laurent church などを訪れました。ロッテルダムの都市計画は芸術的な驚きに満ちており、オランダの人々の習慣や文化をより深く理解することができました。

EAU2022

7月1日から4日にかけてはアムステルダムでEAU2022に参加しました。ほぼ全てのセッションはハイブリッドスタイルで行われ、アジアからの参加者は非常

に限られていました。私の専門である腎移植のセッションも少ないながらもいくつか参加することができました。中でも印象に残っているのはロボット腎移植に関するセッションです。このセッションでは、欧州各国を中心に進められている臨床試験についての結果のサマリーを知ることができました。正直なところ、ロボットで行う腎移植にどのようなメリットがあるんだろうと思っていましたが、今後の新たな技術革新につながる可能性もあるのだろうと感じるようになりました。また、最新技術を紹介するセッションでは、Ex vivo-Fluorescence confocal microscopy による迅速診断や、Multitracer lymph tracing など、技術革新の一端に触れることができました。7月3日にアムステルダムの国立海事博物館にてインターナショナルフレンドシップディナーが開催されました。セレモニーでは、EAU 事務局長の Christopher Chapple から今回の国際交流プログラムに対する盾が授与されました。この感動的な瞬間は決して忘れることはないでしょう。

最後になりますが、この教育的で貴重なプログラムを開催して下さった EAU, JUA, KUA, TUA の関係者の方々に感謝いたします。また、Prof. Axel をはじめとする University Hospital Schleswig-Holstein のスタッフの方々、Prof. Boormans をはじめとする Erasmus University Medical Centre のスタッフの方々の温かいもてなしに特に感謝申し上げます。この素晴らしい Exchange Programme が継続され、多くの若手泌尿器科医が国際的な機会を得て、良い国際関係を築くことができるよう期待しています。